

問一	a	娯楽
	e	れいめい
問二	b	嘲笑
	f	やゆ
問三	c	錯綜
	g	混沌
問四	d	栄枯盛衰
問五	<p>②</p> <p>ネットミームが文化として定着した場合、保護対象となる一方で肖像権との衝突が起こり、どちらを優先すべきかという問題が生じるから。</p>	
問六	<p>内輪の文脈で自由に行われていた創作が、大衆化により外部の評価基準にさらされることで、自由な表現が制約されてしまうということ。</p>	
問七	<p>(i)限られた参加者同士で価値観や文脈を共有し、外部の評価を前提とせずに活動する閉じた共同体。</p>	
問八	<p>(ii)一度広く共有されたミームは忘却されにくく、繰り返し想起されて外部からの評価を受け続けることになるから。</p> <p>文章Ⅰの著者は楽しさと人権侵害リスクを併せ持つものとして捉えている一方で、文章Ⅱの著者は内輪文化が大衆化して変質したものとして捉えている。</p>	
問九	<p>①</p>	

問 〓 解答例〓

選んだ選択肢

①

この物語の冒頭では、鈴木が空手部をやめたくなるほど練習で疲れている様子が読み取れる。そして、そのような状態にある鈴木はタンパク質を欲しており、無意識のうちに肉などの食べ物について考えている可能性があるといえる。ここで、「豚肉」の別の読み方として「とんにく」が挙げられる。この点を踏まえると、鈴木は豚肉のことを思い浮かべ、「とんにく」と発言したと解釈できる。さらに、風呂を出た直後に鈴木がラーメン屋の屋台に行こうと提案したのも、豚骨スープや豚肉を使ったラーメンを食べたかったためだと考えれば、物語全体のつじつまが合う。加えて、「とんにく」をアルファベットにして並び替えると「TNOKUNI」、すなわち「Tの国」となり、田所の国を示す言葉になる。この作品では鈴木という名前で登場しているが、実際には本名である田所を暗示しつつ、自らの帝国を築こうとする野望を表しているとも読み取れる。その大胆さもまた、作者の意図としてうかがえるだろう。このようにアナグラムを仕込む手法は、文学ゲイム作品に特有の表現といえる。以上のことから、ここで鈴木が発した言葉は「とんにく」であることが証明された。(491字)

理1	理2
30 + 20	

受験番号					
1	1	4	5	1	4
氏名					
田所浩二					